

名コンシェルジュによる特別講演会
究極のおもてなしを学ぶ

2月5日、ホテルサンルート白河（新白河駅前）で、おもてなし隊“チームしらかわ9uality”結団式の一環として、日本橋高島屋コンシェルジュの敷田正法さんを招き、「気遣い力」と題した特別講演会が開催されました。敷田さんは「ありません・知りません・できませんは決して言わない。そして、人が喜ぶことをするのがおもてなしです」と話しました。参加者は4月から本番を迎えるふくしまステーションキャンペーンに向け、改めておもてなしの心を学びました。



▲実体験を元に話す敷田さん

体育・文化成績優秀者表彰式
優秀な成績を収めた小・中学生123人をたたえる

2月19日、文化センター（中田）で、平成26年度体育・文化成績優秀者表彰式が行われ、体育や文化、音楽活動で優秀な成績を収めた小・中学生の児童・生徒、総勢123人にその功績をたたえ、賞状とメダルが手渡されました。受賞者を代表して、小林友里恵さん（白二中3年）が「目標を実現するために努力することや、自分を支えてくれた家族や先生、仲間の大切さを学び、自分自身を成長させることができました」と話しました。



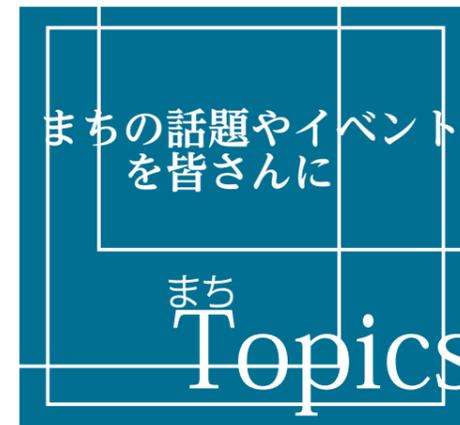
▲表彰を受ける生徒たち

第20回中山義秀文学賞贈呈式・受賞記念講演会
徳川家康の魅力を語る

2月15日、はくしんイベントホール（旭町）で、「第20回中山義秀文学賞贈呈式・受賞記念講演会」が行われ、受賞作「峠越え」の作者、伊東潤さんに正賞と副賞が手渡されました。贈呈式後の記念講演会では、伊東さんが「家康から学ぶ乱世の生き方」をテーマに、凡庸さを自覚していた家康の魅力や、天下人がなぜ信長・秀吉でなく家康だったのかなどを話しました。120人の参加者は、ユーモアを交えた話に熱心に聞き入っていました。



▲講演をする伊東さん



▲多くの来場者であふれる会場

伝統の白河だるま市
福を買い求める多くの人で熱気にあふれる

2月11日、恒例の白河だるま市が市内の天神町・中町・本町の目抜き通りで行われ、昨年を上回る約16万人が訪れました。約1.5kmの会場には、白河だるまなどを販売する約700軒の露店が並び、威勢の良い売り手の声が響くなか、県内外から福を買い求める来場者で終日、熱気にあふれていました。また、マイタウン白河（本町）では白河ラーメン部会による「白河ラーメン感謝イベント」が開かれました。白河清流豚などを使用した特製スープのラーメンが提供され、家族連れなどが限定ラーメンを堪能しました。中町に設けた市神社では、例祭が行われ、商売繁盛や今年一年の平穏などを祈念して大々神楽を奉納しました。



▲市神祭の様子

景観まちづくりシンポジウム
景観・屋外広告物で地域に賑わいを

1月25日、市立図書館りぶらん（道場小路）で、「賑わいのある美しい景観をつくりだすために」と題したシンポジウムが開催されました。基調講演では景観・屋外広告物を活かしたまちづくりの話があり、続いて行われたパネルディスカッションでは良好な景観形成や、賑わいのあるまちづくりを進めるために取り組むべきことについて意見が交わされました。約150人の来場者は、興味深く耳を傾けていました。



▲パネルディスカッションの様子